



撮影＝佐伯 健三

photo by Saeki Kenzo

東京・竜泉一丁目の普茶料理「梵」の前にて

# 「梵人会」



左から、**ウォン・ウインツァン**（ピアニスト、作・編曲家）、  
**伊藤宏一**（千葉商科大学大学院教授、CFP）、  
**岡本和久**（I-Oウェルス・アドバイザーズ社長）、  
**林望**（作家、書誌学者、声楽家）

# 私

は昨年まで十五年間、年金資産の運用に携わってきた。この間、年金運用は「合理性」へ向けて大きな進歩をした。私はこれから個人資産の「運用合理化」が起こると考えている。しかも、資産形成を通じて投資家には物心両面でゆたかな、品格ある資産家になってもらいたい。その一助となるべく、昨年、個人投資家向け資産形成セミナーを行う会社を立ち上げた。

ーを毎月、実施している。また、澤上篤人氏らとともに行っている長期投資の啓蒙活動、「クラブ・インベストライフ」では編集主幹を務めていただいている。伊藤さんは音楽の造詣が深く、フルートの腕も立つ。私はクラシック・ギターが趣味で、二人で合奏をしたこともある。しかし、人前で披露できるメドは立っていない。

ウオンさんと知り合ったのは、昨年、「瞑想でつかむ投資の成功法」(総合法令)を出版したときだった。ウオンさんも私と同じ

瞑想者で寄稿をしてもらった。瞑想体験から生まれた彼の音楽はすばらしい。特に「童謡」シリーズは聞いているだけで、仕事が進む。ウオンさんには、当社セミナーの会員と

なっていた。作家・音楽家として名高いリンボウ先生とは、大学時代、共にクラシカル・ギター・クラブに所属していた。当時から異色の存在だった。若いころは随分、苦勞もしたと聞く。書店に「イギリスはおいしい」が平積みされたときは、「遂に、やったな」と思った。氏の著書、「帰宅の時代」にある「団塊よ、個に戻れ！」という趣旨が、当社セミナーの「自立」というテーマともびつたりなので伊藤さんを紹介した。すでにウオンさんのCDを贈呈していたので、話がウオンさんに及び、是非、四人で会おうということになった。

音楽、瞑想、投資、不思議な縁で四人が繋がった。四人が初めて会った普茶料理「梵」にちなんで「梵人会」。四人を集めることができ、私はひそかな達成感を感じている。(岡本記)